日経産業新聞　2012年（平成24年）2月27日（月曜日）

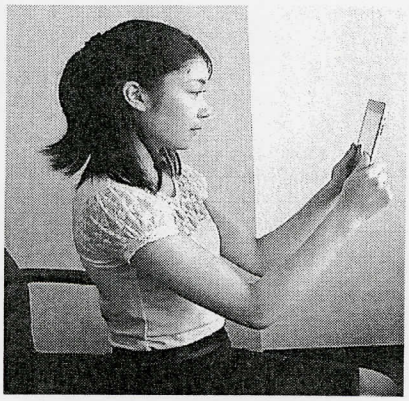
# 声で鬱診断 中国で研究

## ハッピープリント

### 上海交通大学などと共同

### 患者データ分析

カウンセリングなどを手掛けるベンチャー企業のハッピープリント（東京・港、中上晶子社長）は中国で音声によって鬱状態を診断するシステムの実証研究に乗り出す。上海交通大学などと共同で鬱病患者の音声データを収集・分析。声で鬱病を診断する方法の確立につなげる。メンタルヘルス対策に取り組む国内外の自治体に同システムを売り込み、新たな事業に育てたい考えだ。



米アップルの「アイパッド」を使い、音声データを収集する

上海交通大学医学部や同済大学（上海市）と鬱病の診断システム開発について共同研究を始める合意書を結んだ。月内にも上海交通大学が鬱病患者50人、同済大学が健康な人50人の音声データの収集を始める。

音声データは米アップルの多機能携帯端末「iPad（アイパッド）」を使って集める。対象者に一定の文章を音読してもらって音声を記録。声帯の振動で発生する周波数や声のリズムなどの違いを分析する。共同研究は9カ月間を予定しており、来年にも共同で論文をまとめる計画だ。

声帯の基本周波数や声のリズムなどから喜怒哀楽や興奮状態にあるかないかなどの感情を分析できる技術を応用することで鬱状態や鬱病に特有の特徴を割り出し、それらを指標として鬱の状態を段階別に計測できるとみる。中上社長は「症状改善がどこまで進んでいるかなどを判断する客観的データとして医師が参考にできる」と期待する。

鬱病は自己診断テストやカウンセリングを通じて診断したり、根治したかを判断したりするのが一般的。脳波などの検査を実施する医療機関もあるが、検査装置が高額なため、あまり普及していないという。

鬱病患者は世界的に増加傾向にあり、メンタルヘルス対策は各国や各国自治体、企業などで重要性が高まっている。ハッピープリントは国内外の自治体などに同システムの採用を呼びかけ、データ分析などを新たな収益源にする計画だ。

**ハッピープリント**　認知行動療法によるカウンセリングを専門とする中上晶子社長が1993年に創業。現在の資本金は5600万円。法人向け名刺作成店のフランチャイズチェーン（FC）展開が主力だが、国内の印刷需要が伸び悩むなか、新規事業の育成に取り組んでいる。